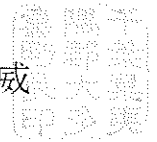


大 建 第 2 5 0 号

平成20年10月17日

国 土 交 通 省 道 路 局 長 様

千葉県大多喜町長 田 嶋 隆 威



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

秋冷の候、貴台におかれましては益々ご清祥の事と、お慶び申し上げます。 平素、道路行政全般にわたりまして、ご理解・ご協力・ご尽力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、平成20年9月19日付け国道企第37号により提出依頼がありました標記の件に付きまして、別添のとおり提出いたしますので、よろしくお取り計らいくださるようお願い申し上げます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

千葉県大多喜町

1、首都圏中央連絡自動車道インターチェンジの仮称の変更について（要望）

現在「仮称市原南インターチェンジ」となっている名称を「市原養老インターチェンジ」に変更願いたい。これは千葉県内有数の自然観光地である養老溪谷の入口に当たる地域にできることから、利便性や安全性の向上入込客を擁し、養老溪谷を目指す多くの圏央道利用者にとってダイレクトに視認できることから、利便性や安全性の向上に資することができると思慮される。なお、佐久間市市長には田嶋大多喜町長から当該変更についてお願いをしています。

2、国道などから養老溪谷へのアクセス性の向上について（要望）

多くの観光入込客を有する養老溪谷であるが、多種のメディアで紹介されているがその割には伸びていない。これは養老溪谷への来訪者にとって養老溪谷への進入ルートが判りにくいことが起因していると思われるので、国道などから養老溪谷への進入が容易にできるよう国道と地方道との取り付けや案内看板などを改善願いたい。

3、国道297号羽黒坂トンネルの整備促進について（要望）

国道297号は当町を含む夷隅地域の住民にとって圏央道あるいは東京・千葉方面への最短のアクセス道路であるが、計画から相当期間経過している羽黒坂トンネルが開通することにより所要時間短縮及び安全性向上が見込まれることから、早期の着工・完成が望まれている。

4、国道465号筒森バイパスの早期完工について（要望）

国道465号については養老溪谷や他地域の自然観光拠点へのアクセス道路として欠く事が出来ない主要幹線道路である。しかし、筒森バイパスについては着工から期間が経過しているが完成に至っていない。このバイパスの完成により観光客が他の観光地との移動がスムーズになり、養老溪谷を含む当町の観光振興などに与える影響は大きなものがあり、早期の完工及び全線にわたる整備促進が待ち望まれている。

5、歩道整備費用の国費助成について（要望）

歩行者保護に資する歩道整備については道路管理者の持つ管理形態中でも優先すべきものであるが、整備が進んでいな

いのが実情である。 当町において県の事業等により、メインストリート緑石を撤去しカラー舗装により歩道と車道を区分化した。が、歩行者と車との事故もなく利用者にも好評であり、当該フリー歩道の整備を他の町道にも整備したいが財源がない状況であるので、交通弱者の保護を推進する上からも国費助成を検討いただきたい。

6、国道・県道などの除草管理について（要望）

道路を利用する者にとって、車窓からの美しい景色は運転に疲れた者には心身を癒してくれるドライブの良きパートナーとなっているが、国道や県道の一部に自転車を通るのに支障が有るほどの雑草が繁茂しているところが見受けられるので、目に優しい道路施設の維持のため除草などの適正な管理をお願いしたい。

7、町道等の維持管理費の国費助成について（要望）

大多喜町は地域内1～4級町道の250kmの維持管理を行っているが、道路修繕についてはあまり進んでいない状況である。また、赤道・青道の維持管理について国の方針で市町村に移管されているが、維持管理が適切にされているとは言えない状況である。これらの状況を打開する必要性から町直営の作業班を組織し、町道や赤道・青道の維持管理や修繕を行っています。すが資金が不足している状況でありますので、市町村道整備プランに記載されていないくても自由に町道や赤道等の補修・維持管理のための、何にでも使える簡易な交付金制度の確立を要望する。

今後の道路行政についての意見・提案

② ー 1 地域の現状と抱える課題

様式②

千葉県大多喜町

○現状 大多喜町は、房総半島のチベットと形容される地域を包括した山間地域であり、豊かな山林に囲まれた観光地である養老溪谷と本多忠勝十万石の城下町として知られているが、近年の観光宿泊客と入込客数がかなり減少しているため、観光客の誘致に多くの努力を割いている。また、地域自治体を主体とした第三セクター運営のいすみ鉄道が町内を含めて運行しているが、恒常的で巨額な赤字に悩んでいる。 国道は297号及び465号が町内を縦貫しているが、国道297号の一部と国道465号及び県道の山間部寄りには歪曲しなおかつ道路幅員が狭い。 町道は1～4級を合わせて250kmあり、国から移管された赤道・青道も非常に多くあり、管理が行き届かない状況である。	○課題 全国の市町村が抱えている課題はどの市町村も変わらないと思慮するが、大多喜町でも少子高齢化に伴う就業者の激減と購買力の低下が顕著で、地域経済の崩壊が表面化し工場や商店の廃業が目立ってきている。 その地域の盛衰は道路・鉄道・水路・水道などの「道」に委ねられていて、市町村が望むこれらの整備を図れるならば、地域経済活性化のカンフル剤となることから、国などへ強く要望していく必要がある。
---	---

② ー 2 地域の目指すべき将来像

千葉県大多喜町

上総地域における政治文化の中心地的な地域であった大多喜も、時代のすう勢とともにその中心から外れ一地方弱小自治体となってしまっている。これは、その昔房総半島に鉄道が敷設されようとしたとき、その当時は歴然とした権力の有る地域であったため、黒煙被害や悪いものが入ってくるとの風評から海岸方面に厄介払いをしてしまったもので、鉄道とともに政治文化の中心地さえも捨て去ってしまった。（大網駅から茂原駅までは直線ではその延長線上に大多喜・勝浦が有る）

今、大多喜町が目指すべき将来像は地方の中心地は望めないが、人口が増加し工場や商店が栄えることができる町づくりであり、このためには「道」の果たす役割は大きい。「道」は道路・鉄道・水路・水道を表すが、特に「道路」「鉄道」はその地域の栄枯盛衰をも左右させるため、これらの整備は大多喜町の地域経済などの活性化にとっては欠かせないものとなる。

「道路」については、遠い大都市である千葉や東京へのアクセスも当然必要であるが、大多喜町の人口が増加し地域経済活性化を押し上げる為には、近い小都市である茂原や鴨川へ短時間で到達できるバイパス的で直線拡幅化した道の整備が是非とも必要である。具体的には茂原市役所前から鴨川バイパスへの道路整備を将来像として望みたい。同じ轍を踏まないためにも。

「鉄道」は意見聴取外であるが、千葉県における唯一の第三セクター鉄道であり、同じ国土交通省所管ということで目指すべき将来像を次の通り求めたい。第三セクターいすみ鉄道はいすみ市から大多喜町の房総半島の半分を縦断している。現在地域自治体を中心に第三セクターとして運営をしているが、交通手段の変化から乗客数が激減しており赤字が慢性化し存続の危機に直面しているが、当該鉄道は交通弱者の通院や買物、通学になくはない地域の鉄道としてその存続に強い期待が寄せられている。しかし、当該鉄道を支えている地方自治体は、自らの市町村の運営も赤字体質から抜け出せなく財政状況が限界に達しており、国の財政援助を求めるほか有効な手段はない状況です。また、他に援護策となり得る集客施設として、小・中学校の教材の一部になり野外学習の場として道路・鉄道資料体験館的なものをいすみ鉄道沿線に建設いただければ乗客数が飛躍的に増加し、赤字体質からの脱却が図れるものと思慮する。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

③道路施策重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

千葉県大多喜町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他